

## 令和元年度第3回 長野市総合計画審議会 会議録

日 時：令和元年9月13日（金） 午後3時から午後5時まで

場 所：第一・第二委員会室（第一庁舎7階）

出席者：委員/青柳委員、荒井委員、池尻委員、市村委員、伊藤委員、金物委員、萱津委員、熊井委員、黒岩委員、小木曾委員、清水委員、轟委員、廣田委員、藤原委員、宮沢委員

事務局/（企画課）日台次長、羽田補佐、宮坂係長、山口主査、白澤主査  
（人口増推進課）池田課長、宮下補佐、飛澤主査

### 1 開会

（事務局）

令和元年度第3回長野市総合計画審議会を開催させていただきます。

今回は、グループワーク形式で議論の方をさせていただきたいと思っております。

お手元にあります資料の確認になりますが、次第と資料1から3、本日の追加資料として配布した資料4になります。

本日、大日方委員、梅干野委員、牧野委員、山崎委員、横地委員から欠席の連絡を頂いておりますのでご報告申し上げます。

はじめに、金物会長からご挨拶をよろしく願いいたします。

（金物会長）

今年度3回目の総合計画審議会です。

本日は、グループごとに分かれて議論していただきます。

来年度から2年延長する「長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で重点化する内容について、前回に引き続き来年から2年間どの部分に力を入れていくかということ、忌憚のない意見を出して頂けたらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。

それでは、グループワークに移らせていただきます。

グループワークを始める前に、議論の目的と前回までのおさらい、本日の最終的なゴールを説明させていただき、共通認識ができたところでグループワークに入らせていただきます。

また、事務局案についても併せて説明させていただきます。

それでは資料1をご覧ください。

おさらいということで簡単にご説明いたします。

本日の議論の目的は、人口ビジョンで本市が目指す将来像である「2060年に人口30万人確保」を実現するために、平成27年度から5年間の計画として「長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、さまざまな施策に取り組んでおり、来年度から2年間この戦略を延長するにあたり、2年間という限られた中でどの部分に力を入れ、どういったことに新しくチャレンジしていくかを考え、絞り込むことになります。

今回の2年延長の総合戦略だけではなく、その後の令和4年から5年間の総合計画後期基本計画も見据えまして議論をいただければと思います。

前回までの議論の整理としては3点あり、まず1点目に長野市の特徴として力を入れて取り組んでいく部分を出していく必要があるということ、2点目に現行の総合戦略は総合計画と同様に、総花的な内容であるため長野市が「どういう街になりたいか」という色が見えてこないというところ、3点目に特徴を持った部分を展開し、市内外に向けてPRをしていくことができなければ長野市が他の地域に埋もれていってしまうという懸念があるということでした。

また、これらの議論は、何もないところからの議論ではなく、議論のベースとなるものが必要ということで、今回、たたき台として事務局案を提示させていただきました。

今回の論点、ここが今回の最終的な部分ですが、長野市を「どのような街にしたいか」という、色づけとその部分を「どのようにみせていくか」ということについて、事務局案をたたき台にグループごとに考え、議論していただきます。

グループ内で議論いただいた内容を整理のうえ、全体で発表、共有していただくまでが今回のゴールです。

今回のご意見は戦略の延長の素案に反映し、11月の審議会で改めてご提示をさせていただきます。

続いて、今回の議論のたたき台となる延長版の重点項目の事務局案とその他の資料について説明させていただきます。

(資料1から4までを説明)

それでは、自己紹介を含めたアイスブレイクからということで、グループでの議論をお願いします。よろしくお願いいたします。

(グループ討議)

グループごとに分かれてグループワーク

(事務局)

各グループで出された意見の全体共有をお願いしたいと思います。

グループAからよろしくお願いいたします。

(グループA 小木曾委員)

目標1の①として、多様な人材の活躍ということは、生産性を保ったうえでニーズに合う多様な働き方が出来ることが大事ではないかと考えました。例えば、リモートワークやフレックスタイムによる勤務での拘束時間の改善や、女性が働きやすい環境という意味で、さまざまなハラスメントを無くすことなど、働き方改革によるワークライフバランスを実現し、若い世代も含めて、多くの人に戻って来てもらえるような働きやすい職場が増えてほしいという意見が出ました。

目標2については、目標1から繋がっていく部分もあり、多様な働き方をしている大人の姿を次の世代に見せていくことで、消防団といった地域の活動への参画にも繋がっていくのではないかと思います。

関係人口の創出と長野ならではの暮らしと情報発信という面で、空き家、公共交通機関を活用して、例えば、公共交通であれば長野電鉄を鉄道好きの方に売り込んで長野に来てもらい、関係性を築いていくという方法や、空き家を活かすことで地域の魅力に繋げていくことができるといった意見がありました。

目標3については、長野市の教育の特徴として信州やまほいくや高原学校などの課外活動で子供たちが豊かな経験を積むことにより生きていくための力が育まれるという部分で、東京との違いが出せるのではないかと考えたほか、高等教育の分野でICTや芸術などの切り口に特化してみるのも、長野市としての魅力に繋がるという意見もありました。

最後に「まちの色」、「まちのイメージ」について多く意見がでました。

1つ目が、エリアごとに異なる魅力が活かされていること。中心部では都会的な生活ができ、松代では城下町の雰囲気、西山地域では中山間地域の暮らしといった、それぞれの文化や風土の違いから特徴があり、そこをブラッシュアップしていくことが重要ではないかといったことです。これに関連して、お金がかかることですが、街中は再開発が必要という話やイトーヨーカ堂撤退に関連した話もありました。

もう1つは、先程の「多様なニーズに合った働き方」、もう1つは、「子供が沢山の経験が出来るまち」ということで、経験はそこに来てからでないとできないという意見があり、例えば東大の先生に講義をしてもらうのはインターネット経由でも可能ですが、山に登るためには山まで行く必要があるといったことで、長野に来てもらう理由として経験が出来るコンテンツがたくさんあるということが長野の魅力、長野の良いところではないかという意見がありました。

(事務局)

続きましてグループBの方、よろしく願いいたします。

(グループB 藤原委員)

長野市は規模が大きいため、どうやっても一つのキャッチフレーズでまとめるのは難しく、PRの仕方として、価値観を共有する人にメッセージを届けていくのが大事であり、いろいろな人の「こういう未来にしていきたい」という声がちやんと出てきて、しっかりと伝わっていくようなまちづくりができれば面白いという話をしている中で、シングルマザーが住みやすいまちをつくれたら長野市はいろいろな人にとっても住みやすいまちになっていくのではということで「シングルマザータウン構想」といった発想が出てきました。

中に住んでいる人に対して、もっと住むうえでの魅力を高めていくようなアプローチをすることで、それを外に対してアピールすることができるのではないかと考えました。

目標1の担い手の育成のところでは、例えば、シングルマザーの創業支援など、少しターゲットを絞ったもの、大きい声じゃなくて小さな声に絞った政策が実施できれば、それ自体がPRになっていくという話でした。

また、テレワークを進めていくうえで、セキュリティをもっと確保していこうとか、お母さん同志が繋がれるような場づくりができればという話も出てきましたし、家賃が高い駅前でも若い人が出店してチャレンジできていると、面白いまちとして訴求出来るといったアプローチが多くできれば良いなという話になりました。

目標2のところでは、移住に向けたステップとしての関係人口ではなく、まちのファンであり、まちのことに對して当事者意識を持って関わってくれる人を市外に増やしていくことが大事であり、様々な人たちが住みやすく、輝ける場所であることが、住民の愛着に繋がっていくのではという話になりました。

目標3・4のところでは、シングルマザータウンから話が発展し、老人ホームとシェアハウスを組み合わせたらどうかといった話になったほか、目標4では、長野は都市部に比べると災害が起きた後のリカバリーなども含めて住みやすいのではないかといいことで災害に対する強みをもっと発信できるのではという話も出ました。

(事務局)

続きまして、グループCの方、よろしくお願ひいたします。

(グループC 荒井委員)

総合計画後期基本計画に統合後の5年間を見据え、総合戦略延長の2年間でどこを尖らせるのかという観点から、仕事を支える暮らしがあり、暮らしを支える仕事であるため、仕事、暮らしともに大事ではあるが、仕事についてどんな課題があるのかという議論をしました。

産業もそれなりにあり、仕事もそれなりにある中で、現状の課題として、仕事の情報が入手しにくい、あるいは、転職がし難いというものがありますので、「仕事のプラットフォーム構想」ということで、仕事の情報に容易にアクセスできるネットワーク環境をつくったらどうかという具体的な案も出ました。

仕事に関しては、2つの観点が必要であり、1つ目は、多くの人が安心して仕事ができる「安定」、2つ目に、起業しやすさとして「チャレンジできる環境」があげられました。

重点をどこに置くかということでは、若者に焦点を当て、若者が活躍できるような環境をつくっていくためには、2つの仕事の在り方があり、繰り返しになりますが、1つ目は、「若者が安心して働けるような環境をつくる」、もう一つは、「若者が起業しやすいような環境を整備していく」という話が出ておりました。

先程の話に戻りますが、延長の2年間はまさにチャレンジ出来る2年間であり、スタートアップの位置付けとして、「安心」と「チャレンジ」をキーワードとしてまとめられると思っています。

最後に、盛り上がった話として、これからは行政が民間をいかに支えていけるのかという部分で、行政の関わり方、あり方が随分変わってくるのではないかという話が出ました。

(事務局)

最後になりますグループDの発表よろしくお願ひします。

(グループD 宮沢委員)

事務局案の⑦『『まち』も『ひと』もちょうどいい』というキャッチフレーズについて、「ちょうどいい」という言葉が刺さるかは別として、長野市とは実際そういうものだなとグループ内で納得しました。ある程度田舎の部分もあり、都心型の生活もできる部分もある中で、価値観が人それぞれ違う中で、自分で選んで生活できる場所、それが長野市だということが考えとしてまとめられました。

これに関連して、世代が10歳違ってくると、求めるちょうどいい生活が全く異なってくるので、情報発信やアプローチの仕方も自ずと違ってくるということを話しながら感じました。

また、「ちょうどいい」ということでは、失敗しても再起できる環境や雰囲気が必要だろうという話もありました。そういった環境があれば、目標1②に関連して、2・3回失敗しているけれど、今は地域で輝いている魅力的な大人も出てきますし、それが若い世代が戻ってきたいと思える地域に繋がっていくのではないかという意見もありました。

長野市では、網のような施策の中で失敗した人を救える機会はあるので、周りの空気ですういった人を潰さないような社会にしていく必要があると思います。

次に、次世代の伝え方については、Uターンで一度県外に出て戻って来ている人は、どこかに長野に対する愛着であったり、自尊心が擦られる部分があり、戻ってきている方が多いと思われるので、その中で小・中学生に対しては、これまでアピールできていない素材や文化を強力に伝えていくことで、長野市の良さを自分の在り方や自尊心に繋げていくことができれば、市外に一度転出したとしても、また戻りたいと思える長野市になるのではないかと思います。

また、高校生には直接的なアプローチとして、企業や商売をしている人と直接話をする機会を増やし、働くことや長野で暮らすということを具体的にイメージできる場を多くつくる必要があるという意見が出ました。

子育ての世代に対しては、余暇と仕事のバランスは人それぞれであり、余暇1仕事9の人もいれば、5対5でやりたい人もいるので、「ちょうどよさ」に繋がる部分で、そのバランスを選択できるのが長野市だという意見がありました。

この他、情報発信全般の話として、市では小学生や中学生に向けてパンフレットを配っているとのことですが、小学生はチラシをまず見ないので、アプローチをしても響いていないのではという意見がありました。

年代ごとに求めている長野市のちょうどいい暮らしは異なり、世代ごとに刺さるアピールの仕方も違うので、ある年代をピックアップしてアプローチの仕方を細分化してもよいのではないかという意見でまとまりました。

(事務局)

ありがとうございました。

また、発表いただきました委員の皆さま、ありがとうございました。

今回議論し、共有していただいたご意見は、一旦事務局で整理をさせていただき、庁内で作成した総合戦略延長版の素案とセットで次回の審議会までにご提示いたします。次回11月審議会ではこの素案について改めてご意見を頂戴したいと思っております。

これにてグループワークを終了させていただきたいと思います。

最後に次回の日程につきまして申し上げます。

次回、11月22日金曜日、午後3時から、場所は市役所第二庁舎10階講堂を予定しております。

以上をもちまして、審議会を閉会いたします。

ありがとうございました。